

蛭ヶ岳山荘通信 第75号

発行日 令和元年10月25日
 発行者 北丹沢山岳センター
 事務局 神奈川県相模原市緑区小淵 1545-1
 TEL042-687-4011 FAX042-687-3980

蛭ヶ岳山荘 秋の荷上げは？

春秋の恒例行事である蛭ヶ岳山荘の荷上げは10月半ばに予定されていましたが、台風19号の影響により延期になりました。神ノ川林道崩落により神ノ川ヒュッテのヘリポートが使用できない為、10月末に東丹沢菩提峠上より荷上げする事に変更いたしました。丹沢主脈の焼山方面でも崩落により通行ができません。台風19号はこの丹沢山塊に大きな爪あとを残していきました。



2019.10.15 土砂と流木に埋め尽くされた神ノ川林道

蛭ヶ岳山頂のヒメボタル

今年も飛行発見されず

蛭ヶ岳の夏の風物詩であるヒメボタルは、今夏とうとう一匹も見られませんでした。梅雨明けの7月下旬が天候不順だった事が原因のひとつではないかと思われます。至極残念です。

蛭ヶ岳山荘 周辺の登山道 危険箇所が各所に

今秋10月12日に襲来した台風19号による被害は、丹沢周辺に数知れぬほど発生しております。丹沢主脈の焼山方面は崩落があり危険、神ノ川林道、上青根の林道は通行止めとなっています。蛭ヶ岳山荘へ向かうルートは現在大倉登山口からのコースは通行可能です。西丹沢方面も通行は可能ですが、西丹沢橋～ビジターセンター間の県道は通行止めになっています。いよいよ秋の行楽シーズンにさしかかるこの時期にこのような惨状で、山の関係各所にとって頭の痛い状況となりました。

神奈川県自然環境保全センターホームページより転載→

編集後記

エネルギーショックは地球を覆い、世界で被害が多発している。日本でも6月～9月の半ばまで長雨と台風と激暑に苛まれた。山小屋・キャンプ場等の生業はことに多大な影響を被る。昔のことばに「土方を殺すには刃物はいらぬ、雨が3日も降ればいい」とある。昨年も今年も、気象の変動は人間の生活を圧迫している。これからの季節を天に祈るばかりである。

杉本 憲昭

65年前の丹沢山岳ガイドの記憶 蛭ヶ岳山荘は61年の歴史

蛭ヶ岳山荘代表 杉本憲昭

「神奈川県屋根」と呼ばれている丹沢山塊は、大正12年に関東大震災に見舞われ、山筋はすべて谷に滑り落ちて山姿は変わり果ててしまった。そして更に、翌年には丹沢地震が起こった。それから年を経て、山の緑は人の手により復活した。しかしその後、山は戦争という暴挙を受けた。

山の安定は昭和30年の神奈川県国体により、県にて登山道が整備された。昭和32～33年にかけて蛭ヶ岳山荘・原小屋・長者舎山荘が造られ、33年には民間にて神ノ川ヒュッテ・青ヶ岳山荘などが次々と造られていった。

そして楢有恒等によるヒマラヤ登山の黄金期が続き、登山ブームなどにより丹沢山塊は時代の寵児となった。

この昭和29年2月神奈川県貿易観光課により戦後初めて「観光案内書」が作成された。

昭和29年3月1日発行 「丹沢山塊附・相模湖周辺」より転載→

| 名称 | 場所 | 管理者 | 収容人員 | 宿泊料金 | 備考 |
|----------|-------|--------|------|------|----------|
| 札掛山ノ家 | 札掛 | 小山田武雄 | 五〇 | 一五〇 | 大秦野観光協会 |
| ヤビツ山荘 | ヤビツ峠 | 佐藤五郎 | 五〇 | 一五〇 | 〃 |
| 尊仏小屋 | 塔ヶ岳山頂 | 山岸猛男 | 五〇 | 一五〇 | 小田急電鉄経営 |
| 見晴茶屋 | 大倉尾根 | 久保寺幾太郎 | 三〇 | 一五〇 | 丹沢観光協会経営 |
| 大倉高原ノ家 | 大倉 | 北村福松 | 三〇 | 一五〇 | 〃 |
| 丹沢ノ家 | 丹沢 | 高橋新一郎 | 六〇 | 一五〇 | 丹沢観光協会経営 |
| 二俣小屋 | 二俣 | 横塚政夫 | 四〇 | 一五〇 | 〃 |
| 松ノ小屋 | 松ノ | 飯塚常光 | 五〇 | 一五〇 | 〃 |
| ユーション山ノ家 | ユーション | 山崎与市 | 二五 | 一五〇 | 〃 |

この他中村屋(宮ヶ瀬)、春木屋(鳥屋)、山登屋(長野)、東屋(青根)、渋谷旅頭(脈勒寺) 落合館(落合)、信支館(中川)、道志館(山梨県道志村ノ本)、日ノ出館(同村大久保)等も登山者の宿泊に基盤を提供してくれる。



蛭ヶ岳より北側の登山道
 台風19号の影響により**危険箇所**あり。
 通行は控えてください。
 登山計画の見直しをご検討ください。